（様式）

立命館大学アート･リサーチセンター
文部科学省　国際共同利用･共同研究拠点
「日本文化資源デジタル･アーカイブ国際研究拠点」
2021 年度　国際共同研究成果報告書〔研究費配分型〕

2022 年 5 月 17 日　提出

1. 研究課題名	
全国高地性集落に関するデジタル資料化およびデータベース化プロジェクト （英文課題名　　An Archaeological Digital Database Project on Upland Settlements of the Yayoi Period）	
2. 研究代表者	
氏名（ふりがな）	所属機関・職名
〔日本語〕　森岡 秀人(もりおか ひでと) 〔ローマ字〕　MORIOKA, Hideto	〔日本語〕　(公財)古代学協会　客員研究員 〔英語〕　THE PALEOLOGICALASSOCIATION OF JAPAN, Inc　Visiting Researcher

3. 研究分担者　（合計：　10 名）	
氏名（ふりがな）	所属機関・職名
桑原久男（くわばらひさお）	天理大学・教授
國下多美樹（くにしたたみき）	龍谷大学・教授
若林邦彦（わかばやしくにひこ）	同志社大学・教授
伊藤淳史（いとうあつし）	京都大学・助教
柴田昌児（しばたしょうじ）	愛媛大学・准教授
田畑直彦（たばたなおひこ）	山口大学・助教
寺前直人（てらまえなおと）	駒澤大学・教授
森貴教（もりたかのり）	新潟大学・助教
山本亮（やまもとりょう）	東京国立博物館・研究員
宇佐美智之（うさみともゆき）	立命館大学・特任助教

（様式）

4. 研究課題の概要（300 字程度）　（申請書から変更がある場合は、変更点が分かるように明記してください）

本研究課題は，日本列島弥生時代を中心とする高地性集落に関して，膨大な資料のデジタル化ならびにデータベース化を推進し，WEB での一般公開を目指すものである。高地性集落については小野忠熙（本学出身者）らによりかつて全国規模の調査・集成が行われたが，その後の 40 年間で関連資料は著しく増加しており，データベースの大幅な更新は重要な課題である。また，古代集落に関する国際比較研究の促進等も念頭におき，高地性集落に関する情報を世界的に発信することも必要である。そこで本プロジェクトでは，各地の研究者の連携にもとづき資料の整理・集成を図るとともに，デジタル化作業を進め，「全国高地性集落データベース」として整備し，WEB での成果発信を行う。このデータベースでは UAV（ドローン）による写真・動画・3D モデル等も格納し，利用者が豊富な視覚的データを扱えるよう設計する。

5. 研究成果の概要　（この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります）

本プロジェクトでは 2021 年度において，①遺跡資料のデジタル化作業，また，②UAV（ドローン）による遺跡の視覚的データの取得を推進した。①については，高地性集落に関する情報の全国的な集約を図った後，研究協力者（学部生・大学院生の協力者）と連携しつつ対象遺跡の基本情報をデジタル化・集約し，データベース化を進めた。②については，研究史上重要な位置を占める高地性集落として，佐賀県唐津市湊中野遺跡，同鏡山山頂遺跡，香川県三豊市紫雲出山遺跡，岡山県岡山市貝殻山遺跡，兵庫県神戸市城ヶ谷遺跡，京都府京田辺市田辺天神山遺跡等を対象に，空撮や周辺地形の 3D モデル化等の作業を行い，視覚的データの収集・蓄積を進めた。

6. 研究業績　（この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります）

（1）著書

著書・論文等の名称（Title）	単著・共著の別	発行年月 (Publication date)	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称(Publisher)	その他編者・著者名 (Joint authors)	担当頁数 (Pages written)
展望 『飛鳥』集落と古代令制下地方機構をめぐる課題	共著	2021 年 5 月	『「古墳時代から飛鳥時代へ—集落遺跡の分析からみた社会変化—』古代学研究会	鈴木一議編	pp.383-392
中世石の土木史にみる矢穴技法の展開及び技術史上の基盤—登場の契機・時期、その変遷と普及をめぐっての問題軸—	共著	2022 年 3 月	『福井・勝山　石がたり中世・近世のまちづくり、そして現代　中世・近世のまちづくり調査研究報告書』福井・勝山日本遺産活用推進協議会　独立行政法人　国立文化財機構　奈良文化財研究所		pp.471-484
第4章　田能遺跡と近畿の弥生社会—図録のまとめにかえて—	共著	2022 年 3 月	『田能資料館図録 TANO AMAGASAKI CITY MUSEUM OF HISTORY』尼崎市教育委員会・尼崎市立歴史博物館田能資料館		pp.71-73

（２）論文

著書・論文等の名称（Title）	単著・共著の別	発行年月 (Publication date)	発行所、発表雑誌、巻・号数 (Journal name,Volume, issue)	その他編者・著者名 (Author's name etc.)	担当頁数 (page)	査読有無 (reviewed or Not-reviewed)
淡路の重文三銅鐸実測と松帆銅鐸の出現	単著	2021 年 4 月	全国邪馬台国連絡協議会会報　邪馬台国新聞 12 号			無
古今東西，高地性集落行脚の 50 年 表六甲における群棲連動と城山古墳 銅鏡の早期入手と高地性集落 保久良山遺跡　青銅器の発見と厳かな磐座	単著	2021 年 5 月	季刊考古学 157 高地性集落の新しい動き		pp.14-17 pp.35-36 pp.56-60 pp.74-	無
発掘前夜から墳丘鍬入れへ―静寂の飛鳥、檜前の地の高松塚―	単著	2022 年 3 月	『古代文化』第 73 巻第4号（通巻 627 号）公益財団法人 古代学協会		pp.108-115	有
〈新刊紹介〉関川尚功著『考古学から見た邪馬台国大和説　畿内ではありえぬ邪馬台国』」	単著	2022 年 3 月	『古代文化』第 73 巻第4号（通巻 627 号）公益財団法人 古代学協会		pp.142	無

（３）研究発表等

発表題名（Title）	発表年月 (Presentation date)	発表会議名、開催場所 (Conference title, venue)	その他発表者名 (Author's name etc.)	査読有無 (reviewed/Not-reviewed)
淡路島における重要文化財 3 銅鐸をめぐる諸問題	2021 年 8 月	国立歴史民俗博物館共同研究　弥生・古墳時代青銅器研究会発表「近畿地方における弥生時代～古墳時代初頭の金属器生産と社会」	若林邦彦　他	無
銅鐸研究最前線―ここまでわかった松帆銅鐸	2021 年 10 月	兵庫の重要遺跡（弥生時代編２）、兵庫県芸術文化協会、兵庫県民会館		無
初期農耕文化の東伝―淀川をさかのぼった遠賀川集団はどう変わったか―	2021 年 11 月	特別展『黎明―東西文化が共生した先史時代の近江』関連講座、滋賀県立安土考古博物館		無
探求！尼崎のあけぼの―東アジア・日本列島からみた考古資料の価値―	2021 年 11 月	尼崎市立歴史博物館　開館 1 周年記念講演会（第 2 回）		無
弥生時代の分業と協業	2021 年 11 月	考古学研究会 4 例会合同研究集会、名古屋大学		無
日本最大の鏡と平原遺跡―伊都国を掘った在野の考古学者―	2021 年 12 月	シニア文化塾（歴史コース）、大阪府富田林市すばるホール		無
高松塚古墳の発掘と壁画遭遇半世紀	2022 年 2 月	国宝高松塚古墳壁画発見 50 周年記念展『よみがえる極彩色壁画』第１回講演会、奈良県立橿原考古学研究所	大杉栄嗣	無
高松塚古墳極彩色壁画発掘の調査に従事して	2022 年 3 月	『高松塚古墳壁画発見 50 周年記念　高松塚が目覚めた日―極彩色壁画の発見―』令和３年度日本博主催・共催型プロジェクト　文化庁・独立行政法人日本芸術文化振興会・奈良県・明日香村・朝日新聞社　編集・発行 奈良県	有賀祥隆・青柳正規・大杉栄嗣・岡林孝作	無

（様式）

（４）主催したシンポジウム・研究会等

発表会議名（Conference title）	開催場所(venue)	発表年月 (Presentation date)	来場者数 (number of visitors)	共催機関名(Cosponsorship organization name)
「弥生時代高地性集落の列島的再検証」第 3 回研究会	（公財）古代学協会	2021 年 9 月	40 名	
「弥生時代高地性集落の列島的再検証」第 4 回研究会	（公財）古代学協会	2022 年 3 月	40 名	

（５）その他研究活動（報道発表や講演会等）

（６）受賞学術賞

（７）科学研究費助成事業

研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
弥生時代高地性集落の列島的再検証	基盤研究(B)	2020 年 4 月	2024 年 3 月	代表

（８）競争的資金等（科研費を除く）

.研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
全国高地性集落に関するデジタル資料化およびデータベース化プロジェクト	立命館大学アート・リサーチセンター 日本文化資源デジタル・アーカイブ国際共同研究拠点	2021 年 4 月	2022 年 3 月	代表

（９）その他